



**N.S.ニュース速報A**

**NSDAP/AO : PO Box 6414**

**Lincoln NE 68506 USA**

**www.nsdapao.org**

#1091

10.02.2024 (135)

ミヒャエル・キューネン (Michael Kühnen)

## 第二の革命

### 第一巻：信仰と闘争

#### 第4部

党は国家に命令し、国家は経済に命令する。しかし、個人の参加は、もはや、専門家によって事実上の決定だけがなされる国家領域ではなく、生活の身近な状況を規制する企業や、政治の方向性を決定する党の数百万の軍隊の中で行われる。しかし、すべては一つの目的のために--ドイツ国民の利益のために。

しかし、これは決して非現実的な想像の産物ではありません。1930年代、ファシスト国家と国家社会主義国家は、このモデルが機能することを証明した。コーポラティブ国家、コーポラティブ思想は、第三の道、資本主義と共産主義の間の道、ドイツの未来への道である。現在の状況において、国家社会主義の経済計画には、達成すべき3つの当面の目標がある：

失業をなくす：

国家社会主義は宣言する： 国家社会主義人民国家において、労働の権利は確保される！強制的な労働奉仕は、再び導入される。国家社会主義は、経済状況を正常化するための基本的条件である、将来への信頼を回復する。国家的な労働プログラムは、残りの失業者であるフォルクスゲノーゼンを再統合する。

-  
外国人労働者の送還：国家社会主義はこう宣言する：ドイツ経済はドイツ人によるドイツ人のために組織される。国家社会主義国家には、外国人労働者は必要ない。国家社会主義国家は、不法入国したすべての外国人労働者と独身者を直ちに国外に追放する。1年以内に、残りの外国人も国外に退去させなければならない。ドイツ人のためのドイツ！

-  
自由主義：国家社会主義は、「ドイツ国民は、外国からの圧力から独立して初めて自由となる」と宣言している。今日のドイツは、特に原材料の供給と貿易政策の分野で、外国に完全に依存している。国家社会主義国家は、この依存を終わらせる。自国の原材料をより多く利用し、輸出への極端な依存をなくすのである。もちろん、国家社会主義者は、連邦共和国だけでは自給自足ができないことを知っている。しかし、だからといって、少なくとも依存度を下げないという理由にはならない。自給政策の支援は、国家社会主義者の外交政策の本質的な課題であろう。国家社会主義者と国家社会主義者は、共に**ドイツ社会主義**を要求する！

民族社会主義者の国内政策の中核がフォルクスゲマインシャフトの理念であり、民族社会主義者の経済政策の中核がコーポラティブの理念であるように、外交政策においても、大ドイツの理念は、来るべき民族社会主義国家の努力を回転させる灰でなければならない。「大ドイツ理念」-この言葉だけで、俗人は震え上がる。戦争と恐怖、征服と果てしない流血を思い浮かべるのである。大ドイツ」という名前そのものが、俗人には忌み嫌われるのである。30年以上にわたって、勝者はドイツ国民の頭に、オーストリア人、スイス人、南チロル人、アルザス人がそれぞれの国籍を持ち、西ドイツと東ドイツという国家が徐々に形成されつつあることを叩き込んできた。

ボンの占領軍は、分離主義的な西ドイツの国民感情を醸成するために最善を尽くしたが、あまり成功しなかった。長い間、大ドイツについて語ることはタブーだった。東ドイツの同志たちは、せいぜい大ドイツを提唱する程度であったが、ひそかに、恐怖に満ちていた。なぜなら、この自由民主主義の国オーストリアでは、大ドイツ化を公に要求することは禁止されており、重い罰則があるからだ。FRGでは、Deutch-Völkische Gemeinschaft (DVG) が比較的早い時期からすでに大ドイツのキャンペーンを張っていた。そして、1971年に国家社会主義者の地下運動が出現したことで、堰を切ったのである。1977年、2万人の会員を擁するドイツの友愛会が大ドイツ祖国への支持を表明し、それに続いて国家社会主義者の行動戦線が最初の政党として誕生した。

大ドイツ構想は、世界平和を脅かすものではありません。大ドイツ構想は、ドイツ国民の自然な権利である。他のすべての民族にとって長い間当然のことであったことを、われわれは自分たちのために要求するのである：

**"一つの言語、一つの文化、一つの歴史、一つの血を持つすべての人々を、一つの自由で強い統一された国家に統合すること。"**

ドイツ人が自分たちの権利を要求したとき、多くの友好条約で結ばれている近隣諸国民は、なぜ吠えるのでしょうか。例えば、フランス人がコルシカ島を分離独立させたり、イギリス人がスコットランドを分離独立させたりすることがあるのでしょうか？コルシカ島やスコットランドは、例えば、1945年までの1000年の歴史の中で、誰もそのドイツ性を疑わなかったオーストリア人よりも、確かに独立した文化、言語、歴史を持っていますが？オーストリアがドイツ帝国の一部だったのは、コルシカ島がまだイタリアで、スコットランドが独立した王国だった頃のことです！

これらのヨーロッパ諸国は、なぜ自分たちの国民国家の自治の願望を抑圧するのか、その理由をよく理解している。彼らは、人口規模や経済力に応じて政治的な役割を果たし続けたい、自分たちが父親から受け継いだいくつかの国家を将来にわたって安全に導きたいのだ。フランスの政治家が「グランド・ネイション」 (! ) を、イギリスの政治家が「グレート・ブ

リテン」(！)を維持しようとするのは理解できる。しかし、私たちは大ドイツへの憧れにも同じ理解を求めます！

いわゆるリアリストは、この夢を実現する可能性は微塵もないと反論するでしょう。現時点ではそうかもしれないが、未来にはまだ多くの発展がある。決定的な要因は、その権利と自由のために闘う人民の意志である。国家社会主義は、不可能と思われることを要求し、達成しようとするこの意志を体現している。私たち国家社会主義者は、東西の革命的傾向を知っている。私たちは、ドイツの声が聞こえるところならどこにでもいて、忍耐強く、粘り強く、しかしドイツ人としての革命的な炎に満たされながら、歴史的チャンスを待っているのである。そして、もし数世紀が過ぎれば：もしドイツの自由運動が、すべてのドイツ人の祖国である帝国への憧れを維持することに成功すれば、長い道のりの果てに、私たち的大ドイツが立つことになる！

ドイツ国民は、常に2つの歴史的使命を果たしてきた：

第一に、ヨーロッパ大陸の中心地として、ローマ帝国の遺産である西欧の思想を保持すること、第二に、アーリア系ヨーロッパのアジアに対する防波堤としての役割を果たすことである。アメリカやソビエト・ロシアという外国勢力がヨーロッパの運命に介入し、ドイツの指導の下でヨーロッパ勢力が敗北し、その後帝国が分裂したことによって、ドイツ人はこの二つの課題を追求し続ける可能性と能力を失った--白人ヨーロッパの不利益になる。30年以上前から、ヨーロッパは事実上、世界政治から脱落している。アメリカ、ロシア、日本、中国、アジア、アフリカ.....そこで決定が下される。

ヨーロッパの古い休眠状態の国民国家が地方政治を動かしている間に、世界の未来が別の場所で決定されていたのです。これは民主主義者の責任である！ヨーロッパの国民国家は、発展途上国の要求に屈して、その結果、国民の生活を危うくする。これは民主主義者のせいだ！ヨーロッパの国民国家は、ヨーロッパの国策を立てる代わりに、ニューヨークやエルサレムから命令を受けている。これは民主党の責任である！ヨーロッパの国家

は、自国の軍隊をアメリカの将軍に指揮させ、アメリカがヨーロッパと同じ安全保障上の利益を持つという間違っただけの信念に敬意を表している。これは、民主党のせいだ！ヨーロッパの国民国家は、大陸の半分を奴隷にする半バシア主義の大国、ソビエト・ロシアにひれ伏す。それは、民主党のせいだ！

未来の国家社会主義革命もまた、過去の過ちを避けるためには、ヨーロッパのものでなければならない！すべての国で、憎悪と不満がゆっくりと、しかし顕著に高まっている。どの国でも、自分と自分の子供たちのより良い未来を望み、退廃と諦観にまだ屈服しておらず、自分への信頼と明日への希望を奪われることを許さない白人が集まってきている。彼らは鉤十字の下に集まっている！時は熟した。ドイツ人の統一に続いてヨーロッパ人の統一が行われ、それに続いて**ARISH PEOPLE'S COMMUNITY**が行われる！

人種に関する問題は科学的な問題であり、私は科学者ではありません。したがって、私の目的は、正確で科学的な見解を述べるのではなく、誰にでも明らかなくつかの基本的な真実を簡潔にまとめ、国家社会主義者の世界観の文脈に位置づけることにあります。知性、性格、外見など、人間のすべての性質は、環境の影響と遺伝という2つの基本的な条件によって形作られ、説明することができます。

現代の行動研究は、人間が環境よりも遺伝の影響を強く受けていることを証明している--精神や感情の領域においても。イギリスのアイゼンク教授やアメリカのジェンセン教授がその代表である。民主主義国家や東欧諸国では、行動学や現代生物学の結果を無視することが正しいとされています。なぜなら、それは人間の平等という彼らの教義を揺るがすことになるからです。

国家社会主義はもっと簡単です：

彼の「ドグマ」は、生命の永遠の法則と、人間の本質を認識し、認める意志です。もし本当に人間を変えたいのなら、環境を変えるだけでなく、人間の遺伝子構成にアプローチし、新しい人間を育まなければならない！繁

殖-それは恐ろしい言葉であり、多くの繊細で敏感なブルジョワは緊張してうろたえるだろう！

"またか"という感じですよ：

国家社会主義は人間の尊厳を踏みにじり、まるで人間が創造の頂点、神の神聖な仕事ではなく、ウサギであるかのように、陰惨な飼育実験を行う。"

このようなことを言う人は、進化の結果としての人間の本質を認識していない。人間は、全能の自然が生み出したものであり、その自然は、生存のための闘争という厳しい学校の中ですべての生命をテストし、最もよく、最も厳しく、最も強いものを生き残らせます。

現代人は自然の法則を踏みにじり、自然の進化を停止させ、自らの手で運命を切り開いたのである。彼は自分の中のジャングルを征服しようとしたが、自分の本質を見誤ったために、自分だけの地獄を作り出したに過ぎない：

その人間性ゆえに、世界中で何百万人もの奇形や不具合、遺伝的な病気にかかった人々が人生を引きずり、将来の世代を汚染するために繁殖さえ許されています。異なる人種の人々が自由に交わることが許され、その結果、自らの魂の不調和に苦しみ、環境から本当に受け入れられない不幸な小さな人間の子供が生まれるのです。

偏見なく人間の本性を調べ、自然の法則を再び尊重し、対外的には混血の禁止、対内的には優生学的措置を通じて、自己の人種の純粋性を維持・回復することは、国家社会主義の課題である。この時点で詳細を示唆するのは早計である。30年にわたる人種研究と優生学の禁止が、民主主義支配下の人種崩壊の時代がドイツにどのようなダメージを残したのか、どのような対策を講じなければならないのか、それを明らかにする前に解決しなければならない。しかし、勇気あるアングロサクソンの科学者がこの問題に取り組み（ドイツ人は恐ろしくてできなかったのだろう）、この点でも国家社会主義に正義を尽くさなければならないということは、歓迎すべきこ

とである。

この際、ユダヤ教について簡単に書いておきます：

ユダヤ人問題は、人種的な問題というよりも、ヴォルキッシュ文化的な問題であろう。しかし、国家社会主義者にとって、総統の遺言が無制限に適用されることは自明であり、次のように述べている：

"何よりも、私は、*国家の指導者と信奉者が、人種に関する法律を注意深く守り、すべての民族の世界的毒殺者である国際ユダヤに冷酷に抵抗することを約束する。*"

この4点は、国家社会主義者の世界観を的確に表現しています：

- フォルクスゲマインシャフトという思想
- 企業理念
- 大ドイツの思想と  
人種の重要性を知ることができたこと。

私たちの運動が、現代の政治的、精神的な舞台に華々しく戻ってきたことを、今理解するのは、この基盤に基づくものである。国家社会主義は、現在と未来の切実なニーズに対する答えである。国家社会主義者とその他の善意と愛国心のあるドイツ人（例えば緑の党）は、安全な未来のために戦うドイツの自由運動を形成している。私たちは、私たちの革命が成功するのは、1933年とは異なり、今度はそれが外に向かって放射される場合のみであることを知っています。国家社会主義は輸出品であり、白人種が第3の千年紀を生き残るために、白人世界全体を包含しなければならない！

## 阿頼耶識国家

まず、4つの主要な品種を区別する：

アーリアじんしゅ  
黒色人種（ネグロー）  
黄色人種（アジア人、エスキモー人）  
こうしょくじんしゅ

インディアンは、歴史的に見れば、もはやその役割を担っておらず、黒人は、アーリア人やアジア人よりも人種的な平均値では才能が劣るが、まだその役割を担っていない。しかし、彼らは他の原始人種と同様に、驚くべき生命力とエネルギーを持っており、将来は本当の脅威につながるかもしれない。黄色人種は常に文化的、政治的な偉業を成し遂げてきたが、その高度な文明は、かつてのインディアンのように、驚くべき硬直性と不動性を持つ傾向にある。これらの人種間の相違は顕著であり、否定できない。

私たちは、人間が身体と精神の不滅の一体であることを知っています（例えば、心の問題が身体の病気を引き起こす可能性があることを疑う人はもういません）。また、人間は遺伝によって大きく形作られることも分かっている。これらの事実から出発するならば、明白な人種間の身体的、遺伝的差異が、その論理的帰結として、遺伝的、精神的差異を持つということは、それほどあり得ないことなのだろうか。

私たち国家社会主義者は、こう述べる：

人種間の遺伝的な違いは証明されている。現代の行動学的研究や生物学では、このことはずっと以前から知られていたのですが、これらの知見は抑圧されています。例えば、70年代の初め、アメリカのジェンセン教授は、知能テストにおいて、黒人は白人の同胞よりも成績が悪く、平均して約10%程度であることを発見した。左翼の社会学者たちは、この議論の余地のないテスト結果を、環境の違いや、アメリカにおける白人の生活機会の多さによって説明しようとした。そして、アメリカの黒人よりもさらに生活環境が悪いエスキモーが、この研究に加えられた。すると、エスキモーは黒人よりもはるかに良い成績を収め、いくつかのテスト地域では白人よりも良い成績を収めたので、そ



の驚きは大きかった。それ以来、この調査には何の議論もなく、組織的な沈黙が続いている。私たちはこのタブーを破ろうとしている！そうすることで、民主主義とポリシェヴィズム、脱植民地化と開発援助という戦後秩序全体の基盤を攻撃することになるとわかっているからである。

私たち国家社会主義者は、こう述べる：

人間の平等というドグマは、反証された嘘である！人や人種は、外見だけでなく、性質も違う。政治的な理由でこうした見識を抑えようとする者は、反動主義者である。黒人が私たちと同じように活躍するためには、十分な資金と技術の援助が必要だとまだ信じている人は、納税者のお金を浪費する愚か者です。将来の必要条件を明確にしたいのであれば、私たちは内心で人種の多様性を認識しなければなりません。多様性とは、優劣を意味するものではありません。民族の価値は同じでも、本質は違う、それが重要なのです。多様性があれば必ず対立が生じるのは自然の成り行きである。これは自然の摂理でもある。異なる種族が生存のために争うことで、より優れたものが勝つことが保証されるからである。歴史とは、人種間の闘争の歴史なのです！

第三帝国の時代、歴史家たちはこの認識を証明する数々の証拠を提示しました：人生という闘争の中にいる人は皆、自分を主張しなければならないことを知っている。混雑した路面電車で私が席を確保すれば、他の誰かが立たなければならない。私の家族が家を占有すれば、他の誰も入居できない。私の会社が受注すれば、競争相手は手ぶらになる。私の仲間が消費する原材料は他の誰かにとって不足する。生活空間はそれを征服した民族が使用し、もはや奪うことができない。

人生は闘いであり、"もう戦いたくないと宣言する民族は、戦争をなくすのではなく、自分自身をなくすだけだ!"- アドルフ・ヒトラー

私たちは世界を創造したわけではなく、その法則を認識し、私たちの忠誠心が向けられる人々、すなわち、まずドイツ民族、次に白人種が生き残るような方法でそれを利用するという任務があるだけなので、これを嘆くのは無駄なことです。もちろん、人種間の闘争は、

万人が万人に対抗する盲目的な戦争ではありません。人間は理性的な存在であり、同盟を結び、休戦を守り、平和的な交渉の道を歩むことができるのである。しかし、人種間の闘争を、事実として、また人生の背景として、決して忘れてはならないのです。

国連で発展途上国に対して、より高い開発援助の要求について交渉するとき、それは人種戦争である。商品国が私たちに高い価格を指示するとき、それは人種戦争である。黒人がオリンピックでスポーツの勝利を「ブラックパワー・サリュート」で祝うとき、それは人種間の戦争である。有色人種が完全な公民権を要求してイギリスに大量に移民してきたとき-それは人種戦争である。アフリカ南部の黒人が、そもそもこの国を作ったのは少数派の白人であるにもかかわらず、自分たちが多数派であるとして権力を要求するとき、それは人種間の争いである。

人種間の闘争を否定することは、目を固く閉じ、ドイツではそのようなことが起こらないようにと願うことである。そして、ドイツ人が目を開けると、大都市の鉄道駅で、外国系人種の集団がドイツ人の女の子に口笛を吹いているのを目にし、ベルリン-クロイツベルクのようにドイツ人がまだほとんど住んでいない地区を目にし、根こそぎの外国人二世労働者の犯罪組織や外国人労働者のみが率いる荒々しいストライキを目にし、ドイツ当局が出生率の減少をごまかしながら何十万人もの外国系人種の子供を含む数字を引用するのを目にし、ハンブルクのセントポーリアで初めて、互いに娼婦をこびる白人たちとニグローたちのギャングファイトを見るのだった。ポン引きとして自己主張したい白人と黒人の間のパウリ。

ドイツでは人種戦争は起こらないだろう、と一般市民は思っている。なぜなら、誰も本当の意味で問題を理解していないからである。政党は次の選挙に勝ちたいので、誰も怖がらせてはならない。民主党は外国人の足を踏み入れたくないので、ドイツ人は人種差別で非難されたくないの、一般的な人間性の話は、私たちの人々の懸念を盲目的に見逃しているからである。ドイツ人たちよ、反撃せよ！

世界は人種によって分断され、その富もまた同様である。ここ数世紀

は、白人の技量と活力、自己主張を目の当たりにしてきた。20世紀半ばまで、白人は世界を支配していました。しかし、わずか30年の間に起こった2度の恫喝戦争が、アーリア人の支配を打ち砕いた。有色人種は立ち上がり、独立を勝ち取ったが、問題はさらに深刻化した。西欧の民主主義諸国は、良心の呵責とあきらめの混じった気持ちで、この衰退をなすすべもなく見ていた。数十年の間に、白人の支配領域は縮小し、さらに悪いことに、原材料の支配権を失ってしまった。このような事態は、一般的な出生率の低下と同様に、人類の生物学的将来を危うくするものである。このような事態が、退屈な恐怖ではなく、厳しい現実であることは、アラブの石油ボイコットによって残酷なほど明確に示された。

アーリア人種は、初めてその存在意義を賭けて戦うことになった！何世紀もの間、文句のつけようのない覇権を誇ってきたのに、これは大衆にとって信じられないことです。一般市民は窓から外を眺める。車はまだ走っているし、通りには人があふれ、工場は安定したペースで働き、大量の商品を生産し、生活水準はかつてないほど高い。

"何もかもが悪くなる"ほとんどの人がそう思っているのです。

"物事はそんなに悪いものではない"。政治家はそう言い、マスメディアはそう宣言する。

私たち以外、誰も国民に真実を伝える勇気がありません：**私たちは終末の時代に生きているのです！**

工業化時代のすべての富、豊かさ、快適さは、死の勝利の姿を隠しているゆらめく背景に過ぎない。これらはすべて、父祖の遺産を無責任に浪費し、恐ろしい目覚めの前の短い酩酊に過ぎない。心の底では、物事が長くは続かないこと、富はすぐに浪費され、口座の残高が足りなくなることを誰もが知っている。

しかし、こうした予感麻痺してしまい、ラジオやテレビ、マスコミを通じて毎日国民を安心させる人工的な人物を文字通り信用せざるを得なくなる。まるで、死ぬことを知らないはずの末期患者を安心させる牧師のように。政治家たちは自分たちではどうすることもできず、ただひとつのこと

を知っているか、疑っている。

国家社会主義によって、彼らは偉大な民族の未来への希望を破壊し、裏切られた世代の怒りと絶望に押し流されることなく、これを認めることはできない。私たちは、このことを理解しなければなりません。私たちは、これまで疑惑でしかなかったことを知らなければならない：

アーリア人は初めて、命を賭けた戦いを強いられる。それはもはや、北欧人、奴隷、アングロサクソン、ローマ人など、白人が支配する世界で誰が一番強いかという問題ではなく、すべての白人の未来に関わる問題なのです！

この生存競争における主な問題は、地球上の原材料資源の支配である。原材料は希少であり、白人世界は現在の領域（ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリア）で見つけることができないほどのものを必要としている。有色人種は、原材料の埋蔵量を支配することによって、自分たちが持つ力をまだ十分に理解していない。原材料は世界経済を維持する生命線であり、私たち全員が基本的に気ままな生活を送ることができるのです。しかし、私たちは、内部状況がほとんど混沌としていて、支配者が予測できず、世界の富の分配に不満を抱いている未開発の原始民族に依存しているのです。

私たちは、アフリカの原始的な民族の目覚めを目撃し、アジアやアラビアでは、はるか昔に滅びたと思われていた古代文明人の再起を目撃しているのです。彼らは食料に嫉妬し、不公平に憤り、白人工業国が人口から見て自分たちに権利があるはずの富と世界の埋蔵量をはるかに超えて消費していることに、もはや気づかない。しかし、その背景には、人種戦争という聖火がすでに燃え上がり、新たな世界的大火、つまり世界征服のための最後の決戦を脅かしているのである。

しかし、原料の分配や食糧の羨望という問題だけが白人種の生存問題ではない。それらは、人口開発によってさらに悪化している。アジアとアフリカは、想像を絶する規模の出生爆発を経験しているが、白色人種は数的少数派に沈んでいる。アーリア人の生息地、その莫大な富と減少しつつある

自己主張の意志は、他の人種にとって、かつてゲルマン民族が自分たちの力と未来を確信していたローマ帝国の衰退と同じ意味を持つようになった。当初は平和的だった黒人やアジア人の流れが、アメリカ、オーストラリア、ヨーロッパに押し寄せ、アーリア人の中心的な国々で少数派の問題が発生する。一步一步、白人は押し戻され、婚姻が起こり、出生率の高さと原始人の人種的強さのおかげで、我々の人種の終焉は不可避となる。このような展開に反対することが、私たちの課題である。

国家社会主義は、アーリア人の世界人口のうち、人種的に価値のある、したがって闘争的な部分を一つの標識の下に統合し、すべての白人民族に、勝利であれ没落であれ、共通の運命と共通の任務があることを認識させるという任務を認識しなければならない：

アーリア人の国家共同体を創設すること、それだけが白人種の生存を保証することができるのです。我々は、南アフリカの白人の闘いは我々の闘いであり、アメリカの国家社会主義者やクー・クラックス・クランは我々の兄弟であり、イギリスの国民戦線やフランスの民族主義者は、最終的に我々と同じ敵と戦っていることを理解しなければならない。これらすべての運動が、共通の課題を意識して結集するとき、古い世界は震え、民主主義とボリシェヴィズムは崩壊し、腐敗した過去の廃墟の上に、我々は、始まりと終わりのしるし、新しい共同体のしるし、永遠のしるしである日輪の永遠のシンボルのもとに、新しい世界を建設することになるだろう！



**NS KAMPFRUF**  
KAMPFSCHRIFF DER NATIONALSOZIALISTISCHEN DEUTSCHEN ARBEITERPARTEI AUSLANDS- UND AUFFBAUORGANISATION

September 1934      Ausgabe 1273      26. April 2017 02.06

**Der Kampf geht weiter !**

Wahing Jahre nach der Kapitulation der Wehrmacht am 8. Mai 1945 ist die nationalsozialistische Bewegung wieder da in Form der Volkstempel. Und zwar nicht nur in Deutschland, sondern auf globaler Ebene!

Mitglieder von Massenstab, Vorhut, Verteidigung und Volkstempel haben nicht nur erreicht, das Land der gesunden Idee unseres hoch geliebten Führers Adolf Hitler zu erobern.

Alle Nationalsozialisten sind weniger gefährliche Völkler- und Rassenmenschen als früher. Sie sind im Kampf um die Erlangung unserer Freiheit.

Die Bewegung ist zwar wieder geworden, aber die Gefahr des bolschewistischen Völkertums ist heute noch viel größer als in der Vergangenheit.

Die vornehmliche Aufgabe ist es, Adolf, den Völkertum - gegen alle wahren Völkler (V - in jeglichem Sinne Mittel und Erweiterung, Überforderung und Rassenreinigung.

Ob "legal" oder "illegal", ob im Wahlkampf oder im Massenstab, ob im Propagandastab, bewacht oder auf einem Schlachtfeld anderer Art. Jeder Nationalsozialist hat seine Pflicht!

Hitl Hitler!  
Gottard Lauth




N.S.ニュース速報A  
[www.nsdapao.org](http://www.nsdapao.org)  
#1005      19.06.2022 (133)

NSDAP/AO: PO Box 6414 - Lincoln NE 68506 - USA

フロントレポート  
モリーへのインタビュー

第3部

NSK: 現在のプロジェクトは、明らかに哲学的で、アートに関連したものです。

このような活動が政治に与える影響について、あなたの考えをお聞かせください。

モリーです。フォトギャラリーの更新は続けていますが、主に Adolf Hitler and the Army of Mankind ([www.movingtheancient.com/truth.htm](http://www.movingtheancient.com/truth.htm))に集中して取り組んでいます。現在2ページですが、まだまだやるべきことがたくさんあります。第二次世界大戦の戦場は、まさに情報の埋蔵庫です。1つのことについて情報を探しても、さらに2つほど調べたいことが出てくる。まるで、埋も




the **NEW ORDER**

Number 176 (132)      Founded 1978      April 26, 2017 02.06

**The Fight Goes On !**

Seventy years after the capitulation of the Wehrmacht on May 8, 1945, the postwar National Socialist movement is stronger than ever not only in Germany, but throughout Europe.

Decades of mass murder, expulsion, persecution, and defilement have not sufficed to destroy the seed of the brilliant idea of our much loved Führer Adolf Hitler.

All National Socialists and other racially-aware conservatives and racial kinemen fight side by side for the preservation of our White folk.

The movement has indeed become stronger, but the danger of biological folk death is also much greater today than in the past.

The desperate enemy is in the process of committing genocide against all White folk. His means are non-White immigration, culture dilution, and race-mixing.

Whether "legal" or "illegal", whether in election halls or street battles, whether armed with propaganda material or on a battlefield of a different kind, every National Socialist must do his duty!

Hitl Hitler!  
Gottard Lauth



# NSDAP/AOは世界最大です 国家社会主義プロパガンダサプライヤー！

多くの言語での印刷物およびオンライン定期刊行物  
多くの言語の何百冊もの本  
多くの言語の何百ものウェブサイト



**BOOKS - Translated from the Third Reich Originals!**  
[www.third-reich-books.com](http://www.third-reich-books.com)



**NSDAP/AO**  
**Fight Back!**



[nsdapao.org](http://nsdapao.org)  
Contact us to find out how YOU can help!